

ここでイエスのもとに、こどもが死にそうになって困っている役人が来ました。もちろん、こどもの病気を治してもらうためです。ところがイエスは48節で「役人に、『あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない』と言われた」とあります。これはある意味で、厳しい言葉です。

そこでまずイエスは、「見なければ、決して信じない」と語ります。これは復活のイエスがトマスに語った「見ないのに信じる人は、幸いである」(ヨハネ20:29)という有名な言葉を思い起します。むしろここで、イエスは父親に「掃りなさい」と言われました。このイエスの言葉を聞いて受けとめることが求められているのです。もしここで父親が、こんなに困っているのに、なぜイエスは来てくれないのか、と反発していたら、この次の出来事は起こりませんでした。

さらに父親は息子の病気が治ることを期待しています。つまり、治してくれるのであれば、イエスではなくても、誰でも良いのです。一方でそこには、私たちの熱心さが問題になるという、大きな落とし穴があります。例えば、病気が治らなかったら、それはあなたの信仰が足りないからだと言われるのです。あるいは、先祖のたたりだと脅され、訳のわからないものを買わされるのです。

その代表が、いわゆる霊感商法であり、世界統一家庭連合、いわゆる統一協会です。統一協会はキリスト教系のカルトです。そこで問題になったのは、高額の壺や印鑑を買わされたというものでした。それは聖書の教えやキリスト教、ましてやイエスとは何の関係もありません。むしろ、イエスは失敗のキリストであり、本物のキリスト、救世主が現われたと、統一協会は人々をだましているのです。

それならここで役人は、イエスの言葉を聞いてどのように応答したのでしょうか。

③ 信じる

そこで最後に、イエスの言葉に生かされる人生は、イエスを信頼して歩む日々です。そのことを53節の「彼もその家族もこぞって信じた」と言う言葉から見ることにしましょう。

「掃りなさい」と言われた役人は、「イエスの言われた言葉を信じて帰って行った」(50節)のでした。そして帰る途中で、こどもが治ったことを知ります。ここでこの役人は、興味深い質問を僕(しもべ)たちに聞きます。つまり「息子の病気が良くなった時刻を尋ね」(52節)たのです。そして「イエスが『あなたの息子は生きる』と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った」(53節)のでした。ここで教えられることは、イエスが言葉一つで、こどもを治したということです。つまり、イエスの言葉には人を癒す力があるということです。

日本には、病気を治すことを売りにしている新興宗教がいくつかあります。その中には、イエスが手をかざして治したことを語るものもあります。しかし聖書を読むと、イエスは様々な仕方でも病気を治しています。ここでは本人に会ったり、手をかざしたりすることさえしていません。ただ「あなたの息子は生きる」と語っただけでした。そもそも病気を治すことは、イエスが行った奇跡の一部でしかありません。むしろイエスにとって大切なことは、病気を治すこと以上に、その人が「生きる」ことです。つまり、イエスの言葉を聞いた人は、新しい命に生かされるのです。

旧約聖書の中に、「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きる」(申命記8:3)とあります。主とは、聖書が教えている唯一まことの神です。言い換えると、人は神の口から出るすべての言葉によって生きるのです。それだけに私たちは、イエスの「あなたの息子は生きる」という言葉が大切であることを知るのです。

今日もこうして、主なる神はあなたをイエスの言葉、それが記された聖書に耳を傾けるようにと、この礼拝に招かれました。それは何か、ご利益を得るためではありません。むしろ「あなたがたは……決して信じない」という厳しい言葉を聞くこともあるでしょう。イエスの言葉は、時として私たちの日々の歩み、その言葉、行動を鋭く問います。それは私たちを活かし、助け、生き方を整えるためです。イエスがキリストです。このイエスの言葉を聞くことで、私たちは生きるのです。イエスの言葉は、私たちの人生に真の喜びをもたらす「福音」です。

こうして、ただの偉人に過ぎないと語る世間のイエスではなく、私たちを活かすイエスの言葉に耳を傾けます、そしてこの礼拝を通して語りかけるイエスがキリストである、救い主であると信じるのです。そして喜びの福音を携えて、私たちはこの礼拝から、日々の歩みへと遣わされます。主は来週も、皆さんをこの礼拝へと招いておられます。あなただけでなく、福音をお伝えするために、家族、知人、友人をこの礼拝にお連れすることが出来るなら幸いです。

祈りましょう。